授業科目	臨床看護演習	開講年次	単位	時間	必修	担当責任者	実務経験
		１年次	1	30		坂本　肖子	有

授業概要	抄読学習とグループワークをとおして、看護の対象である人間を理解し「看護とはなにか」深める。 実習で出会った対象、体験した援助についても振り返りながら共通理解できることを目指し、皆がグループメンバーとして役割を果たす。グループワークは、基礎看護学実習Ⅰ終了後から開始し、１年次修了まで継続して行う。

回数	授業計画・授業内容	授業方法
方法	グループワーク　22H、　発表４H	
1～６	Ⅰ．　適応システムとしての人間について理解する １．システムとは ２．全体的適応システムとは ①刺激とは　②適応レベルとは―統合、代償、障害 ③コーピングプロセス　④行動とは ３．適応様式について ①生理的様式　②自己概念様式 ③役割機能様式　④相互依存様式	演習
8～9	Ⅱ．　看護の目標と看護活動について理解する １．看護の目標とは ２．看護活動とは	
10～12	３．事例のＡさんを通して看護目標と看護活動の理解 １）酸素摂取のニードの適応・代償・障害過程について理解し、酸素摂取のニードの適応に向け刺激に働きかける看護活動について説明する。 ２）酸素摂取のニードの充足がその他の生理的様式、自己概念・役割・相互依存様式に与える影響について考え、４つの適応様式の相互関係について理解する。 ３）酸素摂取のニードの適応に向け刺激に働きかける看護活動について説明する。	
13	資料作成と発表準備	
14・15	発表会と意見交換	

テキスト	ザ・ロイ適応看護モデル／医学書院
評価方法	学習内容（個人学習ノート、グループ作成資料、個人レポート）：５割 学習態度（グループワーク・発表会の参加状況）：５割
先修条件	なし